



男女共同参画へ一歩いっぽ。〔パ・ザ・パ〕

Pas ā pas

No. **11**
2008 OCTOBER

『?の悪口 ??へのラブレター』と題して6月21日女性会館にて実施した座談会。

4人の参加者そしてパザパスタッフも加わり、夫について世の男性について辛辣な意見も飛び出しました。



PAS À PAS 座談会

①の悪口 ②③へのラブレター

座談会参加者

- Aさん(30代・葵区在住・中国(大陸)出身)
- Dさん(50代・葵区在住)
- Eさん(40代・駿河区在住)
- Fさん(30代・葵区在住)

パザパスタッフ

- C、G、H(葵区在住)

司会

- Bさん(60代・葵区在住)



変えない夫 変えさせられる妻？

D：結婚や出産で、女性は立場も環境も身体も変化を味わうが、男性は基本的にあまり変化しません。自分は変わらず、周りが変化していく感じなのです。

司会：昔から日本では女の人「嫁に行く」、男は「嫁をもらう」という言い方をし

ます。立場上対等と思っても、言い方は男性主体ですね。

E：24歳の息子が結婚しようと思って「お嫁に下さい」と言うのかと相談してきたから、「もらうものじゃないの。結婚させてくださいって言いなさい」と教えました。

D：結婚して30年。姑と同居していた最初

のころ、なんで女の私だけ変化して、仕事も辞めなきゃいけないのかと思いました。

若い頃は、いろいろ葛藤があったけど、昔よりは良い状態です。

E：私もやはり最初の頃、そう思っていました。今はだいぶ良くなったと思います。

司会：女の人は名前が変わる、出産で身体にも変化がありますよね。そういう体験を乗り越えてきたから強いと思う。男性はそういう体験がないから、もろいのでは。

E：結婚した時、夫は生活に変化がないのに、妻である自分は他人の中のひとりぼっち。子供を産むたびに力を得たというか、味方が増えた気がし、いつからか逆転しました。

司会：10年、20年すると女性のほうが立場が強くなっていく？

E：そもそも夫は自分が一番大事だと思っているみたい。

F：たとえば？

E：美味しいものがあった時、自分が一番最初に食べる。子供と同じかも…。

うちの夫は食事が早すぎる。1品1品出した端から食べてしまう。私は一緒に食べたいのに。話している間がありません。

F：うちは逆で、食事を出してもすぐ食べてくれない。料理がまずいのかと思ったけど、そうでもないらしい。作り手はいつも妻の側だから、夫も料理に参加してくれば、お互いの気持ちが変わり、ストレスがたまらないのでは。

E：生活の基本である食べる事にも、家父長制みたいな感じが未だに残ってる。

司会：一人暮らしを始めた女性が、「新聞を最初に読める楽しみがある」といったという話があります。それまでは、その家では朝一番に新聞を読むのは、家の長である父親と決まっていたのでしょうか。

D：わが家では、夫はお弁当を自分で作っ

Message to wife

何もしない、出来ないグータラの私をこれまで支えてくれた妻に感謝を込めて、言ったことのない言葉をメッセージします。今までほんとうにありがとう！！これからも健康に気をつけて私より早く逝かないで側にいて、いつまでも面倒を見て下さい。よろしく願いします。少しはお手伝いしますよ。好きですよ。愛していますよ。
L・T 60代

Message to wife

元気ですか。時間が有る時には、顔を見せにおいでください。

Y・S 80代
(介護施設入所中)

Message to wife
妻へのメッセージ
メッセージを募集したところ
17通が寄せられました。

Message to wife

初めてあなたにお手紙書きます。残り少ない我が身ですが、最期の日までそれまでご一緒できる事祈っています。

70代

ているので、朝はいつも妻の私が最初に新聞を読んでいます。

A：朝は子供の支度などで忙しいので、妻は新聞を読む時間がないです。中国では共働きが多いので、朝食はテイクアウトのものが多く、そんなに忙しくありません。中国では男性も料理上手な人が多いです。共働きだと、男性も家事をやらざるをえません。昔から夫婦とも家事をやる習慣があったと思います。

司会：昔は、日本人ももっとゆっくりしていましたね。

E：お風呂や夕食は、昔は父親が帰るまで待っていた時代もありました。

D：うちは夫が朝風呂しか入らないのがいや。結婚する前からずっと。

司会：生活習慣を変えない。

D：がんこですね。

自分が一番疲れている？

E：自分のペースで全てが回る。それで自分が一番疲れていると思っているの。夫は自分が話さなくても自分のことを妻は何でもわかってくれていると思っている。

F：話をしなくてもわかっている？ 甘えがあると思います。

E：わかって欲しいと思っているということでしょうか？

F：妻への依存性が高い！

D：うちの夫は自慢ばかりする。男の強がり。

C：あるある。強がり、みえっぱり。

F：どんな自慢をするんですか？

D：夫の同僚の前で妻を従えているように見せるというか・・・。

E：家は逆ですね。人前ではいつも妻のほうが強いような、尻に敷かれているような言い方をする。妻に好き放題させているというポーズをとる。なんでこ

Message to wife
妻へのメッセージ

Message to wife

私は数年前に定年退職いたしました。これまで健康で働いてこれたのも内助の功のおかげだと思っております。しかし口に出しては感謝の言葉はなかなか言えません。それどころか私のわがままで、我慢もせず言いたい放題です。本当は、心の中では妻の存在なしには私の人生は考えられないことなのですが、これからは反省すべきところは反省し、共に健康で暮らせるように協力していきたいと考えております。いつもありがとう、そしてこれからもよろしく。 M・S 60代

Message to wife

思っても口に出しては云えぬ一言、この場を借りて発言「いつも面倒かけてゴメン、これからも、見捨てないで面倒見てネ」
M・K 60代

Message to wife

毎日、仕事に家事にと、お疲れさま。自分でもできることは何でもやろうと思ひ、食事後の食器洗いやアイロンがけなどをしてるけど、まだまだあなたの足元にも及びません。長〜い目で見てチョンマゲ。健康が第一だから、あまり無理をしないで。これからはよろしく！！ (^-^) v
M・K 50代



うも子供っぽいのかなあ。
 D：子どもっぽいっていえば、医者が見られないところとか・・・。
 H：うちもそう。
 D：人前で自分の妻を怒る夫を見かける時があります。
 E・F：そう、時々見かけますね。
 D：言葉のDVですよね。
 F：病院でそういう老夫婦を見かけたことがあります。
 D：男性の事件が多いような気がするのですが・・・。凶悪犯はほとんど男性じゃないですか？

E：ほんと男ってどうしようもない。
司会：内部告発するのは女性。男はかばい合うかも。
 D：でも、職場に女性が増えれば、女の敵は女ということも・・・。
 E：男女のバランスが大事ですね。
 A：生物学的にも男女の構造は違うので、良い方向にバランスを持っていけたらいいと思います。
 E：趣味の悪い香水の匂いとか、おならをどこでもするとか匂いに気を使わない男性が時々いますが、匂いは気になりますね。

Message to wife
 Message to wife
 ありがとう。
 その一声につきます。
 S・Y 50代

Message to wife
 Message to wife
 普段口に出すことはないけど、ありがとう。子供も嫁いでしまいい、これからは2人仲よく水入らずで暮していこうな。頑固おやじより。
 Y・M 50代

Message to wife
 Message to wife
 やさしく、温和な人と外では言われているのに、あなたには、どうして同じように接することが出来ないのだろう。あなたには、つい些細なことで苛立ち、語気が荒くなってしまふ。
 口喧嘩の後にあなたが言ったことがありますね。「子どもは違うけど、あなたと私は他人なのですよ」と。冷静に考えれば至極当たり前、その通りなのですが…。私のことは全てあなたも分かってくれていると思っているから、同じように考えていてくれると思っているから、あなたを私の同人格と思っている横暴な私の振舞い、いつも、ごめんなさい。
 I・M 50代

Message to wife
 妻へのメッセージ

A：誰か指摘しないのかな～。

こんなコトバが女を傷つける

司会：どんな言葉で傷つきましたか。

A：夫に「家のお雑煮はこんな味じゃない！」と。

C：それは、ひどい！（一同）

G：仕事上では「女の子」。馬鹿にした言い方だと思う。職場の女性をまとめて「女の子」という。

C：「～ちゃん」づけも鳥肌がたつ。親近感かなんものつもりか知らないけど馴れ馴れしい。

G：第三者がいる時に〇〇ちゃんとかわざと言う。親密さをアピール？

H：女の人を名前で呼ぶのはかなりプライベートな感じになります。男性はそれがわかってない。鈍感です！

E：女性に対する支配的な気持ちがベースにあるのでは。

司会：バーとかそういう所にいる人の呼び名の感じでしょうか。

E：長男を待ち望む傾向がある。「跡取を」って言われるよね～。

D：家父長制の延長？

E：結局はお墓の面倒を誰が見るかという



Message to wife
妻へのメッセージ

Message to wife

頑固で、自分の意見を曲げようとしなくて、よく衝突
素直に謝れずに、ぶっきらぼうな態度でまた衝突
いつも謝るタイミングを逸して、意固地になってばかり
口べたで、素直になれずに「ごめん」
そして、「いつもありがとう」
結婚して5年、あっという間に家族が増え、
秋には4人になる予定
相変わらず不器用な夫であり、父ですが、これからは末長くよろしく。
M・M 40代

Message to wife

いつも、ごめんなさい。
I・M 50代

Message to wife

5年位前にそれまで勤めていた会社を辞めることになり、妻の実家で暮しています。収入も激減しましたが、文句も言わず支えて頂き感謝しています。がんばっていい想いをさせてあげたいと願っています。
K・S 40代

問題になります。「〇〇家の墓」これは根強い習慣ですからお墓を守る子どもの争奪戦ということも？

司会：外国に行くほとんど個人の墓ですよね。

A：中国も基本的に個人のお墓だから、そういう風習はないです。

C：お墓に関しての考え方は、若い人でも生まれた時からすり込まれていることがあり、難しい問題です。

仕事がアイデンティティなのか

A：男性が働きすぎ。健康上も問題があるのでは。労働時間が長くなったことで、若い人や女性の働き口が減っている感じです。仕事は男性中心に行なわれているし、管理職も多くが男性なので、体制が変わっていきませんね。

司会：男社会の中なので、日本の男性は強い女性が苦手？

A：香港の女性は強いです。日本の男性は、自分がいないと会社が回らないと思っている。夫は骨折しても会社に出勤してました。

E：一人くらいいなくても大丈夫なのにね。自分が行かないと困ると思いたいのか。自分は責任感がある、と思っていきたいのかも。

D：仕事依存症！他に楽しみがない。

F：どうにかならないかと思うが、夫の同僚もそんな感じ。

E：なんでワークシェアリングできないのかなあ。自分の持っている仕事、ものを放したくないのだと思う。ほんとはもっと身を軽くできるのに、それをしないのが男社会。今の状況にしがみついているというか。

C：自分の欲望のためだけに働いて、何が

大事なのわからなくなっている。

G：男性は、仕事そのものがアイデンティティとなっている。

H：休みの日、携帯電話で家にまで仕事が追いかけてくる。

司会：働き方を変えるなどの変化に弱いのでは。

F：会社以外に世界がない。知り合いもない。仕事以外の他の人と知り合うチャンスや交流の機会も少ない。男性は会社以外世界がなくてかわいそうですね。

E：ワーク・ライフ・バランスの問題ね。

働き方の見直し

E：先ほどの息子にも言えることですが、これから結婚する人にも、すでに家庭を持つ男性にも、会社に拘束される時間を減らして、もっと家庭や地域に参加する時間をつくる努力をしてほしいです。

D：とりあえず町内会やPTAなどに参加したらどうでしょうか。

C：自分の時間を作って、余暇のことを考えたら？

A：自分の役割が会社の中にしかないのでは……。意識を変えて働き方から見直さないと。

E：意識があっても改善はされないのではないのでしょうか？

A：働きすぎについては、上から規制しないとなかなか難しいでしょうね。

G：男性の労働時間を減らし、女性の雇用機会を増やせば……。

H：とにかく働き方を変える必要があると思います。

司会：男性が生きにくい社会になったことは事実。どうしたらよいのでしょうか。

C：男性は、思っていることを口に出すの



が苦手ですね。女性の側も協力してあげなければいけないかもしれませんね。

G：若い時は言えなくても、年をとってくると向かい合って言えることも出てきます。

H：もちろん、今からでも修正可能なこともありますね。

C：これからはお互い歩み寄って夫と妻のコミュニケーションをもっと大切にしていきたいですね。



END

前号(10号)特集「男女共同参画とは それってなんのこと？」では、男女共同参画をすすめるには、**家庭での会話 (Conversation)**、**地域社会とつながる (Community)**、**気持ちを伝える (Communication)**、**相互理解 (Comprehension)**、**協働 (Collaboration)**の5つのCが大事としました。

今回の座談会の結果を見ると、男女共同参画をすすめる最も小さな単位である夫婦にあってはConversationとCommunicationが大切という結果となりました。

みなさんは、パートナーに話せていますか？そして聴けていますか？

Message to wife
妻へのメッセージ

Message to wife

いつもおいしい料理をありがとう。2人の子供も大きくなり、手が掛からなくなるまで後1歩。まだ先には山あり谷ありだと思うけど、お互い協力して歩いていきましょう。これからもよろしくお願いします。

O・T 40代

Message to wife

黙ってますがいつも感謝しています。
H・Y 40代

Message to wife

男も、そちらが考えているほどには楽ではないんだよ。
Y・M 30代



Message to wife
妻へのメッセージ

感謝するだけのラブレターでは・・・

「妻へ」

Y.K (60代)

あなたは、ぼくにあって「戦友」のような存在だと、いまは思っています。

夫と妻というものは、人間として対等な関係であるべきだと、若いときから
考えてはきましたが、冷静に考えると、それは単なる観念、ひとりよがりすぎ
なかつた。

生活費を稼ぐということを除けば、あとのことはほぼ全面的に、あなたに依
存してきたわけで、その負担を思うと、これは「対等」とはほど遠いものでは
なかつたのか。

このまえ見た、妻が認知症になった老夫婦を描いた映画のなかに、こん
な会話が出てきました。

男「振り返ってみると、まあ、いい人生だったと思うね」

女「男の人は、よくそう言いますね」

うーん、そういうことなんだ。ぼくは、ガツンと頭を殴られたような気がした。
かりに女性のほうも同じ台詞をつぶやいたとしても、はたしてそこで、彼女の
人権と自由が、男性と同じように保証されていたかどうかが問題でしょう。

そこでぼくは、いささか遅すぎるとはいうものの、「どれだけあなたの人権と自
由を保障する生きかたができるか」を、残された時間の課題にしなければなら
ない、と思いました。だから、「いろいろ支えてくれてありがとう」という感謝の
言葉だけのラブレターを贈るつもりはありません。

でもきっと、返ってくる言葉は、「また口だけは達者で・・・」でしょうね。



チャレンジ レポート

大石 佳代子さん

(NPO法人 フェミニストカウンセリングW&M代表)

男女の固定的役割分担意識の是正に貢献し、男女共同参画社会づくりに向けた機運の醸成に功績のある団体に贈られる静岡県男女共同参画社会づくり活動に関する知事褒賞。平成20年7月19日に受賞されたフェミニストカウンセリングW&M代表 大石佳代子さん（駿河区在住）にお話をうかがいました。



表彰式（平成20年7月19日）中央右が大石佳代子さん

いつもその場を大切に

受賞は思ってもみないことでした。グループとして市からの受託事業を誠実にやっていこうという思いだけでここまで来ました。自己研鑽をして一人でも多くの人に広く使ってもらえるような相談室になることを目標にして。

自分のやりたいことをやらせてもらっているという感謝の気持ちもあります。それを生かさせてもらえる場で自分に関わることができることがとても大きい。やりたいと思ってなかなかできないし、いつもその場を大切に思いながら続けてきました。

気楽に相談できる場所を

カウンセリングを始めるまえのことですが、行政書士として仕事をするなかでいろいろな方の悩みを聴く機会があり、「もう少し早く相談していればここまでの思いをしなくてもよかったのに」と思うことがありました。気楽に相談できる場所があったらどんなにいいだろうと。そこでボランティアで自分の事務所で相談を受け始めて。自分の境遇に負けそうな方の話を聴き、

自己をとりもどしていく様子を感じながら、名前を明かさなくても聴いてもらえ、分かってもらえるという電話相談の必要性を実感しました。

相談者との対等性

クライアント（相談者）はどなたも大きな重い悩みを抱えながら強く生きている。ものすごい力を持っているんです。カウンセラーは、クライアントから力をもらったり、教えてもらったり。クライアントは聴いてくれるところがあるからこそ自分を取り戻せるんですね。そこにカウンセラーとクライアントの対等性があると思っています。

カウンセラーとして

その人が今いるのはその世界であり、その位置なのでこちらが動かすことはできない。カウンセラーはひたすら聴き、クライアントは話すことで自分に近づいていけます。クライアントが話していることの中でここが苦しいんじゃないかとカウンセラーが感じるのがとても大事です。感性が求められますね。

クライアントが話すことで、自分に気付いていき、本当の自分と出会えていく、これでいいんだと社会とのしがらみや枠をとり外せる勇氣に出会った時にやりがいを感じます。

ともに一人の人間であること

女性は虐げられてきたから、もっと権利を主張していいという意見も聞かれます。確かにそのとおりですが責任が伴うという視点が欠けて

います。主張だけ先走ってはいけません。男女双方を見る必要もありますね。女性だけでなく男性も息苦しかった。男だからといわれて。そこを男女でどう共有できるかがすごく大事だと思っている。男と女は競争するものではない。お互いがお互いの権利だけを相手に認めさせるというのは違う。男女がともに一人の人間だということ、男性だって弱さがある。女性は産む性をもって男性とは違うし、健康状態も違う、それについて自分のパートナーと話しあえることが大切ですね。

これからのチャレンジ

自分のことをなかなか伝えられない、カウンセラーには話せるけれど、弁護士や福祉事務所、調停の場で話すとなると話せない方がいます。その方の言いたいことを代弁して、相手に伝え援助するアドボケーター（代弁者）を養成したいと思っています。アドボケーターは相談者の不安をなくし、問題解決をめざすために必要ですね。

DV被害者支援にも関心があります。家族との関係をいったん切り離して自分の不都合さを感じている方が安心して宿泊しながら自分を取りもどせる時間を持てるように、宿泊カウンセリングを計画したい。自分のことを洗いざらい話すことで自分と出会って自信がついてくるのがいちばんいいわけですから。

大切な一人として受け止めて

私はずっと生きづらかった。クライアントも

生きづらくて目にみえないものに翻弄されています。誰かにどう思われたいかではなく自分がどう思いたいか、自分の生き方を自分が大切にしていってほしい。

自分を理解して、受け止めて生きていく、それでいいんだよということを伝えたい。社会通念から自分を解放して、自己管理、自己決定、自己責任ができていけば自由なんだということ。一人一人が自分を大切な一人として受け止めていけるような生き方をしてほしいというのが一番の望みです。



写真左から大石佳代子さん、八木恵子さん、小澤深雪さん

フェミニストカウンセリングW&M

会員は20名。女性のためのカウンセリンググループを運営しているほか電話悩み相談を実施しています。

またグループで学習会を実施。社会通念から自分を解放し、自立を意識するために読書会や意識覚醒（CR）、グループカウンセリングなどを定期的に勉強しているそうです。

フェミニストカウンセリングW&Mは、

女性会館 女性のためのカウンセリングルームでの相談を担当しています。

家族や職場等の人間関係、日常生活での悩みや不安はありませんか。無料ですのでお気軽にご相談ください。

火～金曜日 10:00～20:00 土曜日 10:00～17:00

休み：日、月、祝日、12/26～1/5

まずはお電話でご予約ください。TEL 054-248-1234

ひとつ「働き方」を変えてみましょう！



カエル！ ジャパン

Change! JPN

「仕事と生活の調和」(ワーク・ライフ・バランス)の実現に向けて 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)が実現した社会とは、「国民一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる社会」です。

(「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)憲章」※より)

※平成19年12月18日に関係閣僚、経済界、労働界、地方公共団体の代表の合意により策定されました。

静岡市ではワーク・ライフ・バランスの実現に向けて様々な事業を行います。



男女共同参画へ一歩いっぽ。[パ・ザ・パ]

Pas à pas

発行/静岡市生活文化局市民生活部男女共同参画課

企画編集/市民編集スタッフ 板倉りえ子・狩野直子・櫻井知世・高橋江理子

アドバイザー 木村幸男

〒420-8602 静岡市葵区追手町5番1号 TEL 054-221-1349

<http://www.city.shizuoka.jp/> [✉sankaku@city.shizuoka.jp](mailto:sankaku@city.shizuoka.jp)

パザパ11号のご感想をお寄せ下さい。



大豆油インクを使用しています。
再生紙を使用しています。